



浦島伝説

「分かった」授業を目指します

本校の生徒たちは、明るく素直で、学校行事に一生懸命取り組むなど、他に誇れるすばらしい生徒たちです。しかし、その一方、基礎的・基本的な知識や技能が確実に身につけていない、家庭学習が習慣化されていないなど、学習面での課題が見受けられます。昨年度も、「分かる授業」への授業改善を先生方の研修テーマとして取り組んできましたが、なかなか成果が表れてこないのが現実です。

そこで、本年度は、「分かる授業」から「分かった授業」への授業改善をテーマに掲げました。「分かる」とは学習の過程であり、「分かった」とは学習の結果であるとも言えます。教育では、結果より過程を重視することが多いですが、高校入試などを考えた場合、過程(学習態度)がどんなによくても、結果(テストの点数)が伴わなければ、厳しい現実が待っています。より生徒の立場に立って、生徒たちが「分かった」という喜びを実感できる授業をすることで、生徒の学び意欲や主体的に学習する態度が育つと考えました。

また、今の子どもたちは自分の思いや考えをうまく表現することが苦手です。言葉でうまく表現できないから、殴る・蹴るなどの行動で表現しようとして、トラブルが起こるのです。学習基盤となる言語に関する能力を育成する活動を重視することで、表現力や思考力が身につく、より質の高い「分かった」授業につながっていくはずで

す。先生方も、授業を通して生徒たちと共に学びたいと思います。

学びは、一生。「ことば」は、枯れない。

人生は「ことば」との出会いではじまります。

昨日まで知らなかったことを知る喜びを、私たちは知っています。

新たな「ことば」を学ぶこと、身につけた「ことば」を通して想いを伝えること。その繰り返しが、人と人の絆を育み、大きな社会で生きることへとつながります。

昨今、活字離れや日本語の乱れを理由に、

私たちの人生を彩ってきた「ことばの力」が問われています。

「ことばの力」の低下は、学校教育やビジネスの現場、さらには親子や友人間でのコミュニケーションにも大きな影響を与えています。豊かな社会生活を送るために、

今こそ「ことばの力」の再生が求められているのです。(中略)

私たちの好奇心や学ぶ気持ちは、いつまでも歳をとりません。

だからこそ、毎日こんなにも輝いています。

自分を深く知り、より良く成長するための「ことばの力」を。

それは、人生をもっと楽しく、社会をもっと豊かに生きる力となるのですから。

※ 新聞広告 語彙・読解力検定 から一部抜粋

A4点、K3点、B5点

各教室に、「AKB353」の掲示物が張られています。だんだんと意識する生徒も増えてきました。

A 朝のあいさつは、1年生の大きな声が響くようになって、より活気づいてきました。先生や友達だけでなく、地域の人にあいさつする人の姿も見かけるようになってきました。5段階で「4」がつかます。

K 交通ルールやマナーは、まだまだです。登校風景はずいぶんよくなりました。登校ラッシュ時には、50mを超える長い1列ラインができることもあります。しかし、下校がダメです。ここ1週間で3件の電話がありました。大下歯科、西野公園、多田病院付近での交通マナーがひどいという内容です。部活動で疲れ切っている、ルールやマナーを守るのは当たり前のことです。総合的に判断して「3」です。

B カバンは、ほぼカンペキです。ボタンは、たま～に忘れている人もいますが、注意すると素直にすぐに直します。とても気持ちがいいです。文句なしの「5」です。

